

日西墨三国交通発祥記念之碑建立80周年
サン・フランシスコ号漂着400周年記念誌

絆

—友好の証—



3国の絆を未来へ...



いつも心に!

サン・フランシスコ号漂着 400周年記念誌の発行にあたって



2009年、日本とスペイン・メキシコの修好の契機となったサン・フランシスコ号が当町沖合に漂着してから、400年を迎えました。

それは、1609年、ガレオン船サン・フランシスコ号が、フィリピンからメキシコへ向かう途中難破し、地元岩和田村民の懸命な献身により乗組員373名のうち残念にも56名は亡くなられましたが、317名を助け上げました。水難により衰弱した異国の人々を海女たちは必死に素肌で温め蘇生させたと伝えられています。後、ドン・ロドリゴ総督一行は37日間この地に留まり、村民は衣食住を分け与え、手厚く介抱したと「日本見聞録」に記されています。

我々は、この地元漁民の為した素朴な人類愛と勇気ある行動に、心を震わし感動を禁ずることができません。そして、この感動の共有こそが人づくり、まちづくりの原点であると深く思います。

時は過ぎ、1928年(昭和3年)にこの偉業を称え、白亜の塔、「日西墨三国交通発祥記念之碑」が太平洋を眼下にみる丘の上に建立され、80年以上が経過しましたが、先人の英断とご尽力に深く敬意と感謝を申し上げるとともに、今に生きる私たちに400年前の史実が確実に伝わっています。

この御宿町が誇りとする美拳を町民総意により世界に発信するため、3年前より「サン・フランシスコ号漂着400周年記念事業企画実行委員会」を組織し、委員各位の卓越したご意見と関係機関の絶大なご協力により、食・音楽・芸術・芸能と多彩に文化の祭典を行ってまいりました。

また昨年は、メキシコ合衆国海軍練習帆船クアウテモック号の当町来航、日本メキシコ交流400周年記念式典及びサン・フランシスコ号漂着400周年記念祭においては、皇太子殿下にご臨席を賜るとともに、駐日スペイン大使ミゲル・アンヘル・カリエド閣下、駐日メキシコ合衆国大使ミゲル・ルイス・カバーニャス閣下など、多数の皆様方のご臨席のもと盛大に開催でき、スペイン政府より御宿町民に、イザベル女王勲章徽章が授与されました。また、メキシコ合衆国より高名な彫刻家ラファエル・ゲレロ氏の彫刻「抱擁」を寄贈していただき、日西墨三国交通発祥記念之碑のもとに設置いたしました。さらには、本年になり、メキシコ合衆国カルデロン大統領の来日の際、大統領との謁見や、皇太子殿下とメキシコ大統領が出席する場への招待を受けるなど、さまざまな方面にわたり、記念事業を開催することができました。これも町民の皆さまをはじめ、関係各位の絶大なご協力によるものと感謝を申し上げます。

私たちは、これからも、祖先の為した心根を深く反芻し、精気あふれる人づくり、まちづくりへと大きな力を注がなければなりません。

そして、今後400周年を契機にメキシコ合衆国、スペイン王国、日本のさらなる友好発展と、三国の絆がより強固になることを熱望し、世界平和がより一層実現されますことを念願するものです。

御宿町長

石田 義廣

人類愛の精神を

Recordatorio del Cuarto Centenario del Naufragio del San Francisco

2009 ha marcado el cuarto centenario del naufragio del San Francisco frente a las costas de Onjuku, punto de arranque de la amistad entre Japón, España y México. En 1609 el Galeón San Francisco, procedente de Manila con destino México, naufragó en estas aguas, y gracias al esfuerzo supremo y desinteresado de los vecinos de Iwawada, aunque no se pudo evitar la muerte de 56 de los 373 tripulantes, 317 pudieron salvarse. Cuenta la leyenda que muchos náufragos, extenuados de frío por su peripecia de toda una noche en el mar, pudieron reanimarse gracias al abrigo que les brindaron nuestras buceadoras con el calor de su piel desnuda. Consta, además, por la “Relación y Noticia del Reino de Japón”, que Don Rodrigo y su gente permanecieron 37 días entre nosotros, y que en todo momento nuestros antepasados, sin pedir explicaciones ni recompensas, compartieron con los náufragos techo, alimentos y ropa de vestir. No podemos evitar el sentirnos orgullosos y conmovidos por la sencillez y naturalidad con que aquellos pescadores supieron expresar su solidaridad sin distinciones y su valentía sin límites. Nos hace pensar que esos valores son también hoy el punto de partida para la construcción de nuestra comunidad. Pasado el tiempo, en 1928, para ensalzar tamaña proeza, se erigió un obelisco de caliza blanca en el alto de la colina frente al Pacífico, como “Monumento Recordatorio del Inicio de Intercambios Japón-España-México”. La columna-atalaya, desde hace ya más de 80 años símbolo de nuestra admiración y gratitud hacia aquellos antepasados nuestros, sigue proclamando para los que vivimos ahora lo que ocurrió aquí hace 400 años.

Para dar a conocer al mundo entero este bello episodio que nos define y enorgullece como pueblo, desde 3 años atrás se constituyó el “Comité Ejecutivo Planificador de los Eventos Conmemorativos del Cuarto Centenario del Naufragio del San Francisco”, y gracias a las iniciativas de todos y cada uno de los miembros del Comité así como a las generosas aportaciones de las instituciones relacionadas, se ha podido disfrutar de una gran variedad de muestras de gastronomía, música, artes plásticas y artes escénicas. Además, en el pasado año, la población pudo acoger efemérides tan importantes como la visita que nos hizo el Buque Escuela Cuauhtémoc de la Marina Armada de México, la celebración del Cuarto Centenario del Inicio de Intercambios Japón-México, así como la celebración ante un gran público del Cuarto Centenario del Naufragio del San Francisco, presididas ambas por Su Alteza Imperial el Príncipe Heredero, con participación de numerosas personalidades, como el Embajador de España Miguel Ángel Carriedo y el Embajador de los Estados Unidos Mexicanos Miguel Ruiz Cabañas, celebraciones que culminaron con la concesión e imposición a los ciudadanos de Onjuku, por parte del Reino de España, de la condecoración Corbata de Isabel la Católica. Por otra parte, México nos obsequió con la obra “Abrazo” del prestigioso escultor Rafael Guerrero, que ha quedado instalada cabe el Monumento Recordatorio del Inicio de Intercambios Japón-España-México. Más adelante, entrado este año, de diversas maneras continuó la conmemoración cuatricentaria, y a raíz de la visita del Presidente de México Felipe Calderón a Japón, nuestros representantes fueron recibidos en audiencia por el Presidente, e invitados a participar en actos presididos conjuntamente por el Presidente mexicano y el Príncipe Heredero de Japón. Todo se debe a la colaboración de los ciudadanos de Onjuku en general y al interés manifestado por todas las personas relacionadas con nuestras cosas.

Tenemos ahora el compromiso de seguir adelante, interiorizando el ejemplo legado por nuestros mayores, y fijarnos como meta ser una población y unos ciudadanos con profundo contenido humanitario. La conmemoración del Cuarto Centenario debe servir para elevar más el nivel de amistad entre Japón, Reino de España y Estados Unidos Mexicanos y fortalecer el lazo que nos une, y con ello contribuir en nuestra medida al afianzamiento de la paz mundial.

Yoshihiro Ishida, Alcalde de Onjuku

CONTENTS

町長挨拶	2 ~ 3
駐日メキシコ大使挨拶	4 ~ 5
駐日スペイン大使挨拶	6 ~ 7
御宿・西・墨 交流400年の歩み	8 ~ 9
400周年記念事業	10 ~ 29
日本メキシコ交流400周年記念式典	10 - 13
サン・フランシスコ号漂着400周年記念祭	14 - 15
クアウテモック号来航	16 - 17
産業連携による交流	18 - 19
音楽・文化を通じた交流	20 - 23
小学校での史実伝承	24 - 25
中学校での史実伝承	26 - 27
サン・フランシスコ号漂着400周年記念公募展	28
メキシコ合衆国大統領来日	29
サン・フランシスコ号漂着400周年記念創作歌曲 合唱組曲「あの日を忘れない」	30 ~ 31



墨日関係の400年 未来に向かう友好を祝す

本年は、2国間に友好的な交流が生まれてから400年の節目です。初期の遭遇から4世紀を経た今日、両国国民は、経済・政治・文化の諸分野で協力を深めつつ関係強化を推進しています。この機会に際し、皆様にご挨拶できますことを光栄に存じます。

400周年の祝賀は絆の強さを確認する作業です。その原点は、素晴らしい史実です。ヌエバ・エスパニャ（現在のメキシコ）のガレオン船「サン・フランシスコ号」が、岩和田沖へ1609年9月30日に漂着し、乗員373名のうち317名が村人に救出されました。一行は大御所徳川家康から厚遇を受け、与えられた船「サン・ブエナビントウーラ号」で、翌1610年10月23日に故国への生還を果たしたのです。

両国では、今年（2009年）と来年（2010年）の2年間に、様々な交流行事が企画されています。「日墨交流400周年実行委員会」が双方に設立されており、名誉総裁職にカルデロン大統領と皇太子殿下の就任が決定した点からも、事の重要性は明白です。この契機を活用して、

相互関係と友好親善の絆が強まる事でしょう。

実現したイベントの中では、メキシコ海軍訓練帆船「クアウテモック号」の来日が特筆されています。横浜、東京に続く御宿沖訪問が4世紀後のメキシコ船再訪となり、大きな感動を生みました。「メキシコ20世紀絵画展」と「風の彩（いろどり）展」が開催され、メキシコに栄えた古代文明（世界遺産）の魅力を紹介する考古学の研究発表や環境問題の学問講演会もありました。音楽・映画などの分野で才能豊かなアーティストが来日しました。

これらの事業を通じて、メキシコ人と日本人は相違点を認識し、2国間の長期的パートナーシップが有する大きな意義を再確認しました。両国が400年間に育んだ友好の成果が双方に繁栄をもたらしている現状に接し、固い友情の絆が今後も強化され続けると確信します。未来に向かう墨日両国国民の友好を祝して！

駐日メキシコ大使

ミゲル・ルイスカバリニャス・
イスキエルド



人類愛の象徴 「抱擁」

嵐に遭遇したガレオン船サン・フランシスコ号が1609年9月30日この地へ漂着した。岩和田の住民による人道的かつ決死の救助作業によってドン・ロドリゴ・デ・ビベロ並びに317名が命を救われた。

その史実を介して、メキシコと日本、両国国民の間に友好の絆が結ばれた。メキシコ政府は、墨日交流400周年に因みこの彫刻を御宿町に寄贈する。

平成21年9月26日
記念式典にてメキシコ合衆国政府 より

「抱擁」

この作品は、若くない成熟した男女の精神的に強く結ばれている姿を表現しているが、同時に男女は地球であり、男性の首は太陽、女性の首は月を表し、地球の上で昇る太陽と沈む月が一瞬同時に光を放ちあう瞬間を作者は感じると言っていました。

宇宙の一部である地球に住む人類の愛情と友情を感じていただければ幸いです。

作者 ラファエル ゲレロ モラレス
夫人 猪俣 せい子



西日の2国間の絆が 一層深まりますよう祈願いたします

駐日スペイン大使として、ガレオン船サン・フランシスコ号漂着400周年記念祭に参加できますことを、心より嬉しく思います。スペインと日本との長く続く友好関係は、1549年にサンフランシスコ・ハビエル、通称『ザビエル』が、この美しく心暖かい国を訪れたことから始まりました。そして、その後起きたサン・フランシスコ号漂着は、両国の厚い友好関係の証となる出来事となったのです。

ザビエル訪問から時を経た1609年9月、スペインのガレオン船サン・フランシスコ号がアカブルコに向けて航海中、御宿の沖合で難破するという事件がありました。船にはスペイン領フィリピン総督ドン・ロドリゴ・デ・ピペロも乗船しておりました。御宿の町民の方々により317名の生存者は救助され、手厚い介抱を受けたのであります。

その400年後、我々は再び御宿の地に集まりました。この歴史的な出来事を語り継ぎ、町民の皆様が素晴らしい団結力を賛辞するだけでなく、スペインと日本の

両国の変わらぬ友情は、1927年にスペインのアルフォンソ13世国王陛下が御宿の町民の皆様にご寄せたお言葉にも記されております。その文面はスペイン国も出資し建てられた記念塔にブロンズで描かれ、現在も御宿の沖が一望できる高台にそびえ立っております。

近年では、2008年11月に天皇皇后両陛下が皇居にて主催された歓迎晩餐会において、スペインのファン・カルロスI世国王陛下がお言葉を述べていらつしやいますが、その中にスペインのガレオン船の乗組員に対する御宿町民の方々の団結力に対して、感謝の気持ちを伝えるお言葉がございました。

スペイン国王陛下は400周年を迎えるにあたり、スペイン人総督並びに乗組員を暖かく迎え入れられたことに関して御宿町及び町民の方々に對し、感謝の意を表明しております。そしてこの400周年の記念に、御宿町、町民の方々に特別にメッセージを寄せられることに相成りました。

記念となるこの素晴らしい機会



スペイン最高敬意「イサベル女王勲章徽章」

スペイン領フィリピン総督ドン・ロドリゴ・デ・ビベロ使節団及びガレオン船サン・フランシスコ号が1609年に漂着してから400周年を迎えるにあたり、総督及びスペイン人乗組員を暖かく迎え入れた御宿町・岩和田の町民の方々に対し、スペイン国より感謝の意を表するとともに、ここに日本とスペインの末永い友好と深い絆の証を刻む。

ファン・カルロス I 世スペイン国王 2009年9月

に、スペインは数世紀続いている両国の友情を再確認するとともに、今後の確固たる未来のため、2国間の絆をより深めることを願っております。

最後になりますが、駐日スペイン大使として、御宿町及び町民の方々に対し人類愛の大切さを物語る400年前の歴史の出来事を共有することが出来たことを心から御礼申し上げます。そして、本日スペインと日本の友情の精神をさらに強固に結び付けられたことを嬉しく感じるとともに、心から祝辞をお送りいたします。

駐日スペイン大使

ミゲル・A・カリエド

- 1985.10.24 9月19日にメキシコをマグニチュード8.2という大地震が襲い、渡辺委員長（岩和田区長）がアカプルコ災害救援特別委員会からの義援金をメキシコ大使に手渡す。個人2,208名、25団体、186万1,728円。
- 1988.7.18 日墨修好百周年記念式典が都内で開催。宇野宗佑外務大臣からメッセージを託される。
- 1988.8.3～8.5 マリガランテ号寄港 日墨修好百周年を記念してアカプルコ湾を出発して日本を訪れた。船長ビダル・アルサル船長から滝口栄蔵町長へ航海安全の守り神マーメイドが贈られる。
- 1988.9.7～9.18 メキシコ友好親善視察使節団 団長滝口栄蔵町長 16名参加、ロベス元大統領、ペドロ・オヘダ漁業大臣、レオドレス・ルイス大統領補佐官に謁見。アカプルコ市長イスラエル・サベラニス・ナグエダ氏を表敬訪問。
- 1988.10.16～17 メキシコ文部省親善訪問団、アントニオ・エルナンデス小学校局長を団長とする13名が来町。御宿小学校で公開授業の見学や音楽集会で児童交流が繰り広げられる。
- 1989.10.11～10.22 メキシコ友好親善使節団 団長佐藤高二議会議長 総勢15名参加。
- 1990.10.15～10.24 アカプルコ友好親善視察使節団 団長吉田庸二収入役 総勢14名参加。レネ・ポアレス・アカプルコ市長を表敬訪問。
- 1992.7.16 メキシコ・ラサール大学エストウーディアンティーナ合唱団、日本とメキシコの文化交流使節団来町。月の沙漠記念館屋外ステージでコンサート開催。
- 1994.7.23 アチャイ・メキシコ民族舞踊団御宿公演がラビドールホールで開催。
- 1994.7.27～ この年から毎年メキシコ少年野球団ホームステイを受け入れる。
- 1996.8 ロベス通り記念碑建立。
- 1997.10.4～5 御宿町商工会主催「メキシコ輸入品フェア」を開催。
- 1997.10.13～10.22 アカプルコ姉妹都市友好親善使節団 団長伊藤治昌町長 総勢17名参加。アカプルコ市長を表敬訪問し、アカプルコ市内に御宿 アカプルコ記念碑の建立を依頼する。
- 1998.7.19 日西墨三国交通発祥之碑建立70周年記念式典開催。ウンベルト・コラルアカプルコ市長代理、エンリケモラーレス駐日メキシコ大使館報道官、沼田武県知事、森英介衆議院議員参加。
- 1999.1.28～2.13 メキシコ現地視察研修。（職員海外研修派遣）日・墨国際交流に息づく御宿。（メキシカンビレッジ）基本構想に関する基礎資料の収集、姉妹都市交流の充実（アカプルコ市長表敬訪問）、メキシコ製品の市場調査等のため、プロジェクト委員会から職員2名派遣。
- 2002.3 メキシコ記念公園休憩所の改修。（千葉県・関東ふれあいの道整備）
- 2003.3 大宮寺発掘調査に着手。
- 2004.7 アカプルコ使節団（6名）来町 アカプルコ市長の親書を受領。
- 2004.8.9 日本ともだち協会（アカプルコ市民）アレックス他5名来町。
- 2004.10.10 キンタナルー社会通信局員（5名）来町。
- 2005.3.24 アカプルコ市民、清水氏他3名来町。
- 2005.9.15 アカプルコより清水氏他4名来町。
- 2006.12 田辺光宏氏講演会開催。
- 2007.6 400周年記念事業企画実行委員会設置。
- 2007.9.8～9 黒沼ユリ子料理教室・メキシコ文化交流会・ヴァイオリンリサイタル開催。（ルイスカバーニャス・メキシコ大使ご夫妻。堂本暁子知事他）
- 2008.10.4 川上ミネ ピアノコンサート開催。（セゴビア・スペイン公使他）
- 2008.10.5 「伊勢えび祭り」・「ふるさと満喫フェア」を開催。（メキシコ大使、スペイン公使他）





日西墨400年の歩み

～ メキシコ・スペインとの友好親善 ～

- 1609.9.30
(慶長 14 年) サン・フランシスコ号岩和田田尻沖で暴風雨のため座礁。スペイン領フィリピン総督ドン・ロドリゴ一行 373 名、56 名溺死、317 名を岩和田村民が救助。大多喜城主・本田忠朝の明断により遭難者を 37 日間、岩和田大宮寺に滞在、村民の手厚い保護を受けた後、将軍秀忠、駿府の家康に謁し、1610 年家康が三浦按針に建造させた船によりメキシコ（アカプルコ湾）へ帰国。
- 1611
(慶長 15 年) 答礼使ビスカイーノの来日、1613 年支倉常長のメキシコ・スペイン・ローマ特派などの一連の史実は岩和田村民の心意気に端を発するもの。
- 1928.10.1 日西墨三国交通発祥記念之碑建立（岩和田轟台）高さ 17 メートル鉄筋コンクリート造り、大理石張り。徳川公爵の題字、スペイン国王の御親筆、メキシコ大統領のメッセージが青銅で鋳造。（設計者 美術学校教授金沢庸治 施工者 式田建設株式会社）
除幕式には駆逐艦 2 隻、空からメッセージが投下された。その後第二次世界大戦に目標となるというので軍部からの命令で黒くぬりつぶされる。
- 1958.11.27 終戦以来朽ち果てていた塔が白亜の塔に改修。スペイン大使・メキシコ副領事の参列により竣工式が行われる。（工事費 810,495 円 諸経費 223,559 円）
【メキシコ記念公園の概要】
メキシコの人々と御宿町民の永久の友愛を象徴する公園であり、周囲の石垣は日本の城、メキシコのピラミッドのように 1000 年 2000 年の歴史にたえられるものにと設計された。
- 1975.6.28 井桁三郎氏（南総郷土史研究会 茂原市在住）農業視察でメキシコを訪問の際、岩井敏夫町長はアカプルコ市長あてのメッセージを託す。町長のメッセージに感銘を受けたアカプルコ市長からアカプルコ市の紋章が贈られる。メキシコ大使館バード参事官から手渡される。紋章には「光はアカプルコから 友好の印に」と表現されている。
- 1976.9.8 ～ 9.18 「商工会青年部御宿 アカプルコ友好親善民間使節団」一行 12 名が訪墨、アカプルコ市長を表敬訪問。メキシコ在住の東信行氏の尽力により独立記念祭に大統領に謁見。「アカプルコ御宿港湾姉妹都市」の町長あてメッセージを託される。
- 1977.10.2 駐日メキシコ大使ハビエル・オレア・ムニョス閣下一行 24 人が記念碑を訪れる。メキシコ塔改修の大理石を本国大統領から贈呈してくれるよう依頼。
- 1977.12.13 メキシコ政府の意向により塔改修よりメキシコ風庭園を造るための資金援助を約束される。
- 1978.1.17 メキシコ国から建設大臣顧問建築技師ホルヘ・カンパサーノ氏が来町し、公園整備の打ち合わせが行われる。
- 1978.3.3 日本政府がメキシコ合衆国に贈った漁業訓練船オンジユク丸の引渡し式が、三重県伊勢市で行われ、岩井敏夫町長が出席。
- 1978.5.28 御宿海のカーニバルを開催、メキシコ大使のご厚意によりマリアッチが参加
- 1978.7.31 ～ 8.12 第 15 回国際姉妹都市会議がメキシコ・クエルナバカ市で開催、岩井敏夫町長、岩崎栄一郎議長が出席。8.7 アカプルコ市と姉妹都市協定を締結。ホセ・ロペス・ポルティエリョ大統領を表敬訪問。
- 1978.9. 7 ～ 9.19 商工会青年部友好親善民間使節団訪墨、一行 12 名、ロペス大統領及びフィゲロアアカプルコ市長を表敬訪問。
- 1978.11.1 ホセ・ロペス・ポルティエリョ大統領来町。完成したメキシコ公園でテープカット。青年団のかつぐ神輿に乗せ歓迎。
- 1979.2.11 ロドリゴ駅伝（夷隅一週駅伝）を開催。（以来毎年 2 月に開催）
- 1982.4 アカプルコ委員会が発足。（友好親善の推進）
- 1985.8.10 ～ 11 アカプルコ市長アルフォンソ・アルグディン・アルカラス一行 14 名が来町。



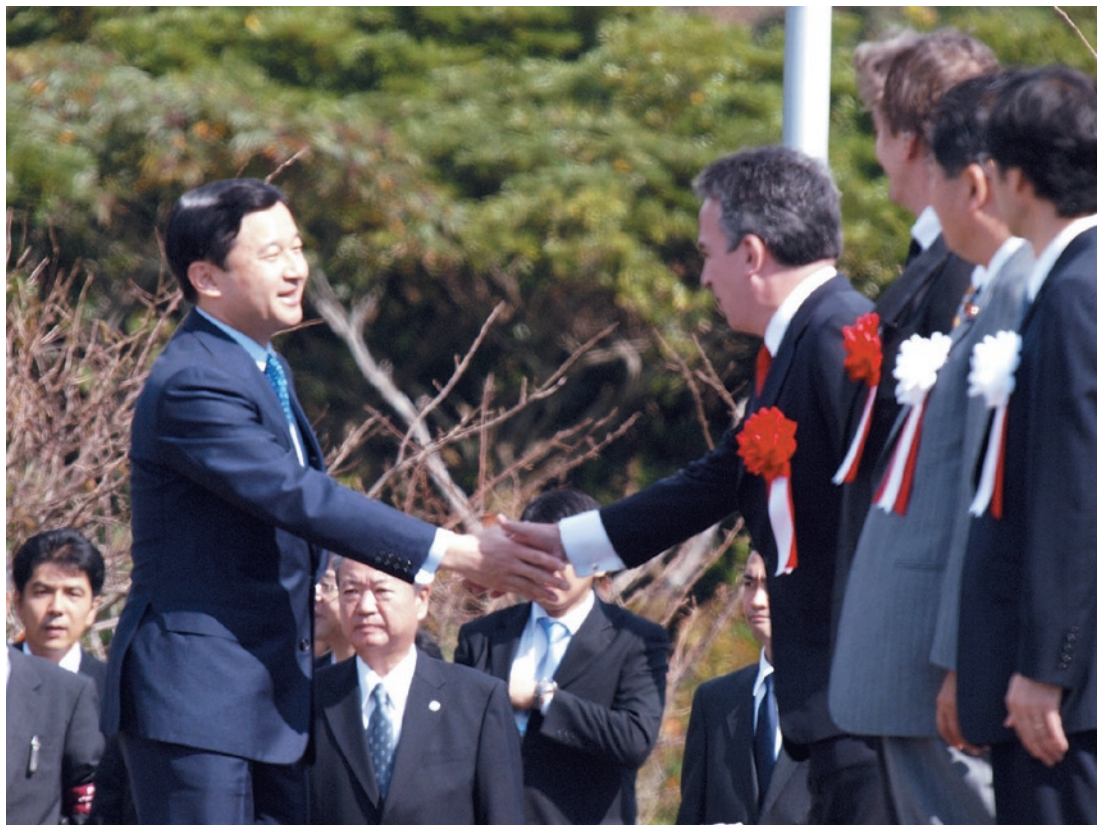


2009年9月26日
日本メキシコ交流
400周年記念式典

出会いから400年…
出会いの地で…



日本メキシコ交流400周年記念



サン・フランシスコ号が御宿沖に座礁したのは9月30日でした。この日から400年目の9月30日を間近に控えた26日に御宿町、外務省、千葉県、大多喜町及び

日本メキシコ交流400周年実行委員会主催による「日本メキシコ交流400周年記念式典」が、メキシコ記念公園にて盛大に挙行されました。



前日はあいにくの空模様で、メキシコ記念公園での開催が心配されましたが、幸いなことに当日は風もなく暑いくらいの秋晴れで、記念公園から見渡す空と太平洋の大海原は爽やかに青く澄み渡っていました。

午前10時石田義廣御宿町長の開会の言葉で式典は始まりました。

本式典には、日本メキシコ交流400周年の名誉総裁就任されている皇太子殿下のご臨席を賜

り、御宿・大多喜両町長、武正公一外務副大臣、森田健作千葉県知事、中川秀直（衆議院議員）日本メキシコ交流実行委員会名誉会長、及び小枝至（日産自動車株式会社相談役名誉会長）同実行委員会委員長をはじめ、国会議員、各関係者など約120名のご出席をいただきました。



偉業を称えるときともに将来に向けての更なる友好と協力を確認する良い機会であるとのあいさつでした。

さらに、同事業のメキシコ側の名誉総裁であるフェリペ・カルデロン・イノホサ大統領から寄せられた、「本祝賀の名誉総裁を皇太子殿下とともに務められること、並びに両国関係史上大きな象徴となるとともにメキシコ人に親しみのある御宿町で本式典が挙行されることを大変うれしく思う」とのメッセージをルイス・カバーニヤス駐日メキ

式典において皇太子殿下は、日本とメキシコとの交流は、多くの分野で緊密なものとなっておりが、400年という長い交流の積み重ねが基礎となっている。

その出発点である御宿の地で両国の相互理解と友好関係が今後末永く増進することを期待する旨のお言葉を流暢なスペイン語を交えて述べられました。

武正外務副大臣の主催者式辞の後、森田千葉県知事、中川実行委員会名誉会長からご挨拶をいただきました。

いずれも、4世紀にわたる両国間の友好をもたらした祖先の



シコ大使が代読されました。

その後、メキシコ合衆国から寄贈された同国を代表する彫刻家ラファエル・ゲレロ氏の彫刻「抱擁」の除幕を、寄贈者を代表して駐日メキシコ大使、製作者を代表して猪俣せい子ゲレロ氏夫人、受贈者を代表して御宿町長の3名で行いました。

この彫刻は、太平洋を挟んだ両国の永遠の友好を象徴し、現在メキシコ記念公園先端部に設置されています。

日本メキシコ交流400周年記念



会場の都合で、残念ながら多くの方のご参加はかないませんが、ものものしい警備の中で行われた御宿町初の行啓は、住民の皆さまのご協力により無事に行事を終えることができました。
400年という節目の年を飾るにふさわしい、格調高い式典となりました。御料車で移動される少し日焼けした皇太子殿下を奉迎された皆さんも多かったことでしょう。
ご協力ありがとうございました。

日本メキシコ交流400周年名誉総裁 皇太子殿下をみんなで奉迎



◀ 9月25日
御宿駅に到着される皇太子殿下をみんなで出迎えました

▼ 9月25日
皇太子殿下がご宿泊されるホテルサヤン・テラス前でも出迎え



◀ 9月26日
式会場の記念塔へ向かう、皇太子殿下を岩和田の海岸通りで奉迎しました

2009年9月26日
サン・フランシスコ号
漂着400周年記念祭

→ 節目の年をみんなで祝う

サン・フランシスコ号漂着400周年記念祭

日本メキシコ400周年記念式典の終了後、場所を月の沙漠記念館前広場に移し、サン・フランシスコ号漂着400周年記念祭を挙行了しました。

記念祭は2部構成となっており、第1部では記念式典に引き続き、皇太子殿下やスペイン・メキシコ両国の駐日大使など多くの方々のご臨席を賜りました。

記念祭第1部は、御宿小学校金管部による3国国歌の演奏で幕を開きました。各国の著名人たちを前に、堂々たる演奏を行った児童たち。皇太子殿下からお誉めのお言葉をいただき、一生の思い出と



なつたことと思います。

また、スペインのファン・カルロスI世国王陛下より400年前の歴史的出来事に対する感謝のお言葉をいただくとともに、スペイン国より御宿町民に対し、日本の団体では初となる「イサベル女王勲章徽章」の授与がありました。

第1部の後半には御宿中学校3年生の石井康太さんと平賀栄里さんから、3国文化交流推進に向けての誓いの言葉が力強く述べられました。

記念祭第2部は、3国を代表する音楽や芸能を通しての国際文化交流を行いました。マリアッチアガベによる軽快なリズムのマリアッチ、かわいく元気な歌声の御宿児童合唱団による童謡、迫力あるダンスを披露した小島章司フラメンコ舞踊団によるフ



ラメンコに、集まった多くの町民や来訪者は大きな拍手をするとともに、各国の伝統芸能を身近に触れることが出来ました。

また、400周年記念創作合唱組曲「あの日を忘れない」の披露が、小学生、中学生、御宿コーラス愛好会・御宿童謡を歌う会・ラビドルコーラスクラブによって行われました。この合唱組曲は「御宿讃歌」、「勇気ある海女の物語」、「あの日を忘れない」の3曲で構成されており、後世に歌い継がれるものとしてつくられたものです。



→ 400年の時を経て……



2009年6月12日

メキシコ合衆国海軍訓練帆船

クアウテモック号来航

クアウテモック号来航



6月12日午前6時メキシコ合衆国海軍の訓練帆船クアウテモック号が網代湾にその大きく美しい姿を見せました。帆船は、2月に本国を出帆、世界各国を巡り5月下旬に日本へ到着、福岡、大阪、横浜を経ての来航となりました。アステカ帝国の最後の皇帝の名前が由来となっているクアウテモック号は、全長91メートル、総トン数1,800トン、今回の旅での乗組員は273名でした。御宿へ到着後、水兵がマストの上に整列するパフォーマンスを披露してくれました。座礁の恐れがあるため、陸に近づくことが困難であることから、洋上停泊し、乗組員の上陸支援は御宿岩和田漁業協同組合所属の遊漁船で行いました。自船の何倍もの大きさの帆船に接舷することは、大変危険が伴い困難が予想されましたが、巧みな操船により

その後一同はメキシコ記念公園に赴き、400年前の両国の英霊に献花を捧げ、全員で黙祷しました。その頃岩和田漁港では遊覧船で

歓迎セレモニーは御宿小金管部の両国歌の吹奏により始まりました。エリ阿斯海軍武官をはじめ大勢の水兵と、駐日メキシコ大使が、小学生の吹奏にあわせメキシコ国歌を歌いだし、大使夫人は、難しいメキシコ国歌を譜面も見ずに演奏する子ども達を見て涙が止まらなかつたそうです。また、セレモニーでは、御宿町長からヴィヴァンコ副艦長へ記念フラッグが、副艦長から御宿町長へクアウテモック号の写真がそれぞれ贈呈されました。

全員無事に岩和田漁港に上陸することができました。



クアウテモック号は、暗い網代湾でライトアップし昼間とは異なる優美な姿で停泊し、帰港の準備が終わると、お別れの合図に霧笛を鳴らし御宿町での一日を胸に遠い母国へ向け徐々に小さくなっていきました。

の「クアウテモック号見学クルーズ」が行われ、町内の小中学生や一般の方、総勢1200名が参加しました。参加者は大きく美しいその船体に近づくにつれ、大きな歓声をあげ、乗組員に向かって手を振っていました。

夕方公民館では歓迎レセプションが開催され、ヴィヴァンコ副館長は「世界各国を訪問し、様々な歓待を受けてきたが、御宿で受けた心からの歓迎はこれまでに経験のないものだ。この出来事は生涯忘れない。」との言葉を残し帰艦されました。





文化交流による新たなエネルギー

～地域の特色ある資源と国際交流の融合～

2009年9月13日

御宿とメキシコの融合作「エビアミーゴ」誕生

産業連携による交流



御宿町をはじめとする外房一帯は、日本有数の伊勢えびの産地で、9月から10月まで「おんじゆく伊勢えび祭り」を開催しており、期間中は、参加店でオリジナル伊勢えび料理が楽しめるほか、直売などを行い、人気のイベントの一つとして定着してきました。

平成20・21年は、400周年記念事業として、地元食材を使ったスペイン料理「巨大パエリア」作り体験やスペインのフラメンコ、メキシコのマリアッチ公演を行い、日ごろ目にする機会の少ない民族舞踊や音楽に、会場を訪れた多くの人々も親しむことができました。この事業は将来への新たな文化の創造に向け、大いなる刺激となりました。

また、御宿とメキシコが融合した、御宿のイメージキャラクター「エビアミーゴ」もこのイベントから誕生しました。



平成20・21年の「おんじゆく伊勢えび祭り」は千葉県と、国際交流事業のタイアップで、スペイン・メキシコに関する行事を行いました。

平成20年は「ふるさと満喫フェア」、平成21年は、「パモスー御宿く日墨西友好400周年発祥の地御宿で国際交流」を伊勢えび祭り開催期間中の休日に行い、会場の月の沙漠記念館前広場に地元住民ほか、県内外の多くの観光客が来場されました。ステージでは、メキシコの民族舞踊やマリアッチ、スペインのフラメンコなど2国を代表する文化芸能が披露されました。メキシコの民族舞踊では、メキシコ国内各地域の衣装や楽曲の由来などの紹介もあり、また、公演後には、演者が観客の元へ行き、一緒に踊る体験もあり、会場は熱気につつまれ、共に盛り上がりまし



た。一方、スペインの郷土料理「パエリア」を、地元でとれた米や伊勢えびなどを使用し、巨大な鍋で作る、「巨大パエリア」調理体験は、一流シェフの指導もあり、味も良く、大変人気でした。

「日西墨友好400周年」を契機に、地域の特色ある歴史や文化を資源とした企画を継続して実施することで、町民や外国の方たちに親しまれ、浸透していくものと思えます。また、地元特産品とスペインやメキシコの郷土料理を融合した創作料理の開発など、食文化等産業面においても交流することで、誘客や更なる絆を深めることにつながると期待されます。



音楽を通じた友好の架け橋

平成 19 年度から 21 年度の間には音楽を用いた様々な交流事業を行いました。今後も音楽・文化を通し、3 国の絆を深めていきます。

音楽・文化を通じた交流

♪ 音楽による交流 (H19~21)

◆黒沼ユリ子ヴァイオリンリサイタル

平成 19 年 9 月 9 日 御宿町公民館大ホール
同時開催：メキシコ料理教室、メキシコ文化交流会（9月8日）

◆オペラ「夕鶴」鑑賞

平成 20 年 9 月 23 日 千葉県南総文化ホール
御宿中学校生徒および一般参加者
同時開催：日本メキシコ「友好の証」展 展示協力

◆スペインピアノコンサート 出演：川上ミネ

平成 20 年 10 月 4 日 御宿町公民館大ホール

◆御宿町文化祭「音楽のつどい・芸能発表大会」

平成 20 年 11 月 3 日 御宿町公民館大ホール
フラメンコ公演 出演：小島章司舞踏団



◆歌曲制作 平成 20 年度

合唱組曲「あの日を忘れない」御宿讃歌・勇気ある海女の物語・あの日を忘れない

◆ビバ！メキシコ！N御宿 出演：太陽のマリアッチ

平成 21 年 4 月 19 日 御宿町公民館大ホール

◆サン・フランシスコ号漂着 400 周年記念祭

平成 21 年 9 月 26 日 月の沙漠記念公園
合唱組曲の発表、マリアッチ「アガベ」公演、フラメンコ「小島章司舞踏団」公演

◆スペインデー

平成 21 年 10 月 31 日
御宿小学校体育館
出演：リュート永田斉子
テノール長尾譲

◆メキシコ音楽祭 2010

平成 22 年 1 月 16 日
御宿町公民館大ホール
出演：黒沼ユリ子、
ソリストス・メヒコ・ハポンほか



1609年、一隻のガレオン船が嵐に遭遇し、岩和田の海岸に漂着したことが、日本とスペイン・メキシコ、異なる文化と歴史を持つ者同士の出会いの始まりでした。400年の間に様々な交流による友好の絆を深めるとともに、記念すべき400年を迎え、様々な音楽を通じさらにその絆が深まりました。



世界的なヴァイオリニスト「黒沼ユリ子」さんは、メキシコでの子供たちへの音楽教育に取り組み、優れた卒業生を輩出してきました。その活動の中で、メキシコのオペラ歌手たちが日本語で歌うオペラ「夕鶴」は、まさに音楽による友好の架け橋といえるでしょう。交流の発祥の地としての御宿町では、平成19年のヴァイオリニスタル公演をはじめ、翌平成20年には、南総文化ホールでのオペラ

「夕鶴」の上演、そして平成22年1月には、夕鶴の出演者や、黒沼さんが育てたヴァイオリニストが来日し、御宿町メキシコ友好コンサートが開催されました。このほかにも、スペイン音楽として、ピアニスト川上ミネさん、スペインデー永田斉子（リユート演奏）さん、長尾謙（テノール歌手）さん、小島章司舞踏団の皆さんによる情熱的なフラメンコの公演が行われました。



音楽・文化を通じた交流



400年前の出来事を語り
 継ぐために、合唱組曲の制作
 にも取り組みました。合唱組
 曲「あの日を忘れない」は、
 どこまでもいつまでも青く広
 がる海、400年前の勇気あ
 る海女の物語、これからも忘
 れずに語り続けようという
 気持ちが表示されています。
 記念式典を始め、友好コ
 ンサートなどで披露されま
 した。



日本・スペイン・
 メキシコ三国の友好
 を記念して、記念特
 別展が開催されると
 ともに、スペイン大
 使館によるドキュメ
 ンタリー「難破船の
 残した友情」、千葉県
 中央博物館企画制作
 「ドン・ロドリゴの来
 た道」などの映像制
 作も行われました。



資料館・博物館 記念展

- ◆御宿町歴史民俗資料館「三国友好の絆」展 平成21年8月～11月
- ◆千葉県立中央博物館大多喜城分館「日本メキシコ交流の歴史」展 展示協力
平成21年9月17日～10月25日
- ◆たばこと塩の博物館「ガレオン船が運んだ友好の夢」展 展示協力
平成22年1月23日～2月28日

ふるさと
郷土の歴史を学ぶ

町内小学校児童は、記念祭での3国国歌の吹奏や乗船体験など、様々な体験の中で郷土の歴史を学びました。

小学校での史実伝承

小学校における

交流400周年

記念事業への

取り組み

御宿町内の小学校では学校間や地域の人々との連携、町の記念事業への参加など、様々な体験の中で、誇りある町の史実を次世代へと繋ぐための活動を行いました。



◎乗船体験

御宿岩和田漁業協同組合のご厚意により、サン・フランシスコ号遭難海域付近への乗船体験を行い、400年前に町で遭った出来事を肌で感じ、それぞれが、その時の情景を思い描きました。また、乗船前には、町の歴史に詳しい米本弘夫氏（新町）から史実を学び、祖先が残した偉業を強く認識することができました。



◎人命救助の精神

白い砂、青々とした波の静かな網代湾。児童の多くはこの海岸で泳いだ経験はありませんでした。そこで、ライフセーバーや売店組合、保護者のボランティアなど、多くの方々の協力を得て、全校海水浴を実施しました。

その中で、ライフセーバーの方々から海の安全についてお話を聞き、ライフセービングのリレー競技を行いました。

児童はこの体験の中で、御宿の素晴らしい環境と自然を感じるとともに、人命救助＝人類愛の精神を学びました。



◎メキシコ学院との交流

メキシコの首都メキシコシティにある日本メキシコ学院の生徒8名が、御宿小学校を訪れました。

小学校では金管部がメキシコ国歌を演奏するとともに、祭り囃子やお神輿を担ぎ、出迎えました。

また、茶道や書道の体験活動を用意し、充実した文化交流が行われました。

今後も小学校では、当学院小学部とメール等による交流など、絆を深める様々な交流事業を進めていきます。



~交流の推進と伝承~

将来への誓い



御宿中学校生徒一同は、400周年記念祭で、
史実伝承・国際交流・世界平和を誓いました。

中学校での史実伝承

誓いの言葉

「私たち御宿中学生一同は、サン・フランシスコ号漂着400周年にあたり、次の3点を誓います。」

- 1 祖先の偉業を後世に語り継いでいきます
- 2 スペイン王国とメキシコ合衆国との文化交流を推進します
- 3 世界平和のために尽くします

中学校における

交流400周年

記念事業への

取り組み

御宿中学校では交流400周年記念祭での誓いの言葉を

をはじめ、当時の寸劇の発表や道徳の授業に町の史実を取り入れるなど、未来への伝承のため、あらゆる場面で交流400周年記念事業への取り組みを行いました。

◎記念祭への参加

そして、誓い

中学校生徒は交流400周年記念祭で、未来に向け「誓いの言葉」を述べるとともに、記念合唱組曲「あの日を忘れない」から「勇気ある海女の物語」の発表も行いました。練習に際し



ては、作曲家の黒澤吉徳先生、作詞家の金沢智恵子先生より直接ご指導をいただき、史実を伝える重みや楽曲の心を学ぶことができました。また、クアウテモック号来航の際には、間近で見る大きな帆船に生徒たちは興奮し、感動している様子でした。

◎通常授業に

町の史実を



御宿中学校では、町の歴史について、通常授業でも採り入れました。道徳の時間では「人類愛」をテーマに授業を展開。「もし、今の自分が当時の岩和田の人だったら、どのような行動をとっていたか？」や、「もし、自分がドン・ロドリゴ一行の一員だったら？」という質問を生徒に問いかけてきました。生徒は、当時の人々の勇気と団結力、また、ドン・ロドリゴ一行の不安と恐怖からの解放を、一人ひとりが想像し、この史実から、「他人を大切に思う気持ち」を学ぶことができました。

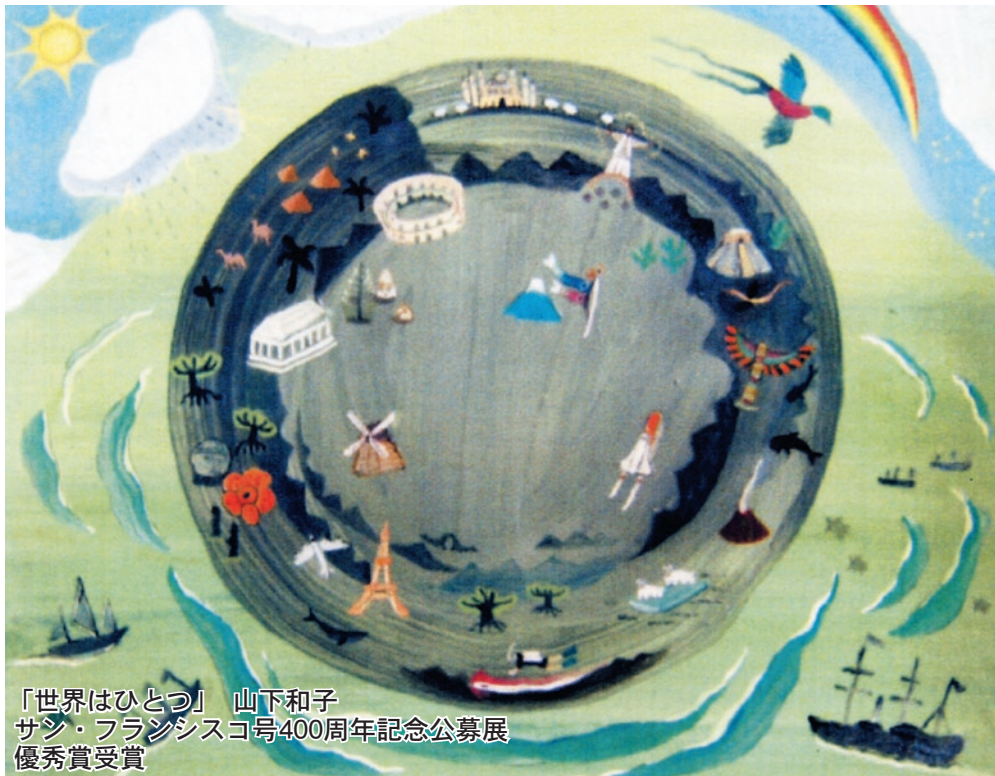
◎深く学び

そして伝える

姉妹都市である野沢温泉村との海山交流の際には、史実に詳しい米本弘夫氏から、メキシコとの交流についてのお話を伺い、史実を深く学ぶとともに、メキシコ船の漂着について、寸劇を通じ野沢温泉中学校の生徒に史実を伝えました。



サン・フランシスコ号漂着400周年記念公募展



「世界はひとつ」 山下和子
サン・フランシスコ号400周年記念公募展
優秀賞受賞

未来へつなぐいのちの大切さを自由に表現 「人間愛」「国際親善」「人命尊重」を御宿から発信

400年前、御宿の漁民が行った人命救助は、人間の最も崇高な行為として、時代や民族の違いを超えて人々の心を強く打ってやみません。この私たちの祖先が為した偉業が象徴する「人間愛」「国際友好親善」「人命尊重」をテーマに美術作品を募集したところ、全国的に、さらには姉妹都市アカプルコ市からも応募がありました。

応募いただいた作品138点は、入賞作品を展示した月の沙漠記念館をメイン会場に、公民館、千葉銀行御宿支店において全ての作品を展示しました。

応募された作品は、「いのち」「家族」「祈り」「願い」、命の起源である「海」、「クアウテモック号来航」や「宇宙」まで表現豊かなものとなりました。技法も様々で、油彩、水彩、パステル、レリーフ、ペン画、写真など幅広いものでした。

審査にあたっては、理屈ぬきにいのちを尊び、異国自国の境を超え、漂着したガレオン船の乗組員たちを必死の介抱で助けた村民の、「いのちを愛おむところ」や情深い「想い」を作者がいか感じ表現しているか、より「想い」のこもった、奨励すべき作品が選ばれました。

大賞に輝いた津田翔一氏、優秀賞の吉本満雄氏、山下和子氏のほか、

スペイン大使賞の古谷一規氏、メシコ大使賞の是永昭宏氏等が平成21年9月18日に行われた表彰式で表彰されました。

表彰式では、駐日スペイン大使より「コンクールへの参加者全員を祝福し、両国間の友好の絆を更に深めるこのようなイベントを主催した御宿町に感謝の意を表します。」と、また、駐日メキシコ大使より「この絵画展は、ドン・ロドリゴ一行が御宿に漂着したときの感動的な歴史を共有するものであり、日本とメキシコのみならず全世界の家族にこの友好のメッセージが届くことを祈念します。」とのメッセージが送られました。

メキシコ合衆国大統領来日



前列中央：フェリペ・カルデロン・イノホサ大統領



日本・メキシコ合衆国両国間の戦略的パートナーシップの強化及び景気回復を目指す同盟強化を目的に、メキシコのフェリペ・カルデロン・イノホサ大統領が、平成22年1月31日から2月2日にかけて日本を公式訪問されました。

2月1日には迎賓館にて、両国の友好のきっかけとなった御宿町に対し、大統領からの記念品が贈呈されました。

また、大統領は、皇太子殿下とともに「日本メキシコ交流400周年」名誉総裁を務められており、日本と同様、メキシコにおいて平成21年から平成22年にかけて、様々な記念事業を展開しております。

新たなパートナーシップの時代に向けて



サン・フランシスコ号漂着400周年記念創作歌曲

合唱組曲

あの日を忘れない

金沢智恵子 作詞
黒澤 吉徳 作曲

御宿賛歌／勇氣ある海女の物語／あの日を忘れない

御宿賛歌 (おんじゅく) (御宿を守る子どもたちのために)

空と海とさわやかな風
どこまでも広がる海原は
はるか世界へつづく道

夜の砂浜 月明かり
”月の沙漠“ がきこえてくる
夢のメルヘン シルエット

勇氣ある海女の物語

切り立つ崖 ぶつかる大波
砕け とどろき 轟々と
大しけの夜の海は荒れ狂っていた
やがて嵐は去り
朝靄の中から無残に傾いた船体が浮かぶ

見たこともない巨大な船

あの日を忘れない

語ろう 忘れずに
伝えよう 今こそ
あの日を奇跡を
語りつづけたい
村をあげての愛と勇氣
岩和田の人々の

ぼくらの町 御宿

誇れる町 御宿

大漁の旗をなびかせ

港へ入る船の群れ

海女さんの歴史を感じる荒磯あらいそに

海鳥飛んで美しく

ぼくらの町 御宿

誇れる町 御宿

未来に続くぼくらの道は

遠く厳しいけれど

自然を愛しこの手で触れるふ

そんな生き方してみたい

そして

海が青く青いままであるために

波間に見え隠れしながら

田尻たじりの浜に泳ぎ着く異国の乗組員

一人 二人 十人 二十人と次々にうめきたどり着く

海女の一人は岩和田の村人を呼びに

老人も男も女も子どもも

その光景に驚き言葉を失った

その時

勇気ある一人の海女が

男をかかえ息を吹き込み温めはじめた

様子を見ていた海女たちは走り

先の海女がしたように体をこすり息を吹き込んだ

こうして多くの男たちは助けられた

村人も村をあげて世話をしたのだった

勇気ある一人の海女の姿こそ

岩和田の人々のやさしさと広い心

それは今でも深く強く息づいている

広い心とやさしさを

忘れずに語りつづけたい

何事もなかったかのように

水天一碧すいてんいつへきの空と海

岬の高台に光る記念塔

今もその歴史を育んではぐくいる

はるか水平線のかなた

遠く離れた異国の人と

命きずなという絆で心通わせる

語ろう 忘れずに

伝えよう 今こそ

あの日の奇跡を

語りつづけたい





発行：御宿町

サン・フランシスコ号漂着400周年
記念事業企画実行委員会